講義名	オ)日本経済論				
担当教員	上瀧　真生				
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 ５時限		授業形態	講義	
履修開始年次	２年生	単位数	2	備考	

主題と概要

現在、日本経済は転換点に立っている。グローバルな経済発展のなかで、日本経済がどのように歩むべきかが問われている。この講義では、前半で働く人々の状態という見地から日本経済の現状を考察し、後半で第二次世界大戦後、日本経済が歩んできた道程を考察する。これらをふまえて、今後の日本経済のあり方を受講生とともに考えたい。

到達目標

①今日の働く人々の状態を日本経済の現状との関係で理解し、自分なりの考えをもつことができるようになる。
②第二次世界大戦後の日本経済の歩みについて理解し、自分なりの考えをもつことことができるようになる。
③以上を踏まえて、今後の日本経済のあり方について考えることができるようになる。

提出課題

毎回の講義でクイズを課す。
中間レポート試験を課す。
期末レポート試験を課す。
＊これらについては、RYUKA Portal のレポート機能をつうじて提出を求める。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

毎回のクイズについては、教務連絡をつうじて採点結果を伝え、次回講義時にコメントする。
中間レポート試験については、採点結果を伝えるとともに、講義時にコメントする。
期末レポート試験については、要望があればコメントを付して採点結果を伝える。

評価の基準

各回の講義で行うクイズ、中間レポート試験、および期末レポート試験の総合評価（単純合計）による。これらを通じて、三つの到達目標についての到達度を測る。
クイズ　　30点満点（毎回 2点×15回）
中間レポート試験　40点満点
期末レポート試験　40点満点

履修にあたっての注意・助言他

できるだけ身近な問題と関連づけながら講義するつもりであるが、受講生も新聞や雑誌などの関連記事に目を通して、今日の日本経済をめぐる問題を知る努力をしてほしい。

対面講義では、以下のとおり、受講ルールを定める。
（1）授業開始後15分を経過したのちは入退室を認めない。
（2）座席については教員の指示に従う。
（3）私語厳禁。目にあまる場合は退室してもらう。
（4）携帯電話などの電源は切る（レジュメへの書き込みなどでPCやスマートフォンを使う場合は例外とするが、写真撮影は禁止する）。

オンデマンド講義では、対面講義の動画を遅くとも講義日の翌日に配信する。
受講生は、この動画を必ず視聴してクイズ、中間レポート試験、期末レポート試験に取り組むこと。

教科書

.教科書は使用しない。.				

プリント資料及び参考文献

RYUKA Portal の講義連絡をつうじてレジュメ、資料を配信する。
配信は講義日の２日前を基本とする。
受講生は、これらをダウンロードし。印刷するなど、講義に向けて準備すること。

授業計画

01.はじめに／現在の日本経済を考えるために
02.働く人々の状態からみた日本経済①―雇用・失業をめぐる状況(1)
03.働く人々の状態からみた日本経済②―雇用を・失業をめぐる状況(2)／賃金をめぐる状況(1)
04.働く人々の状態からみた日本経済③―賃金をめぐる状況(2)
05.働く人々の状態からみた日本経済④―労働時間をめぐる状況
06.働く人々の状態からみた日本経済⑤―男女の働き方のちがい(1)
07.働く人々の状態からみた日本経済⑤―男女の働き方のちがい(2)
／日本経済の歩み①―戦後日本経済の歩みと私たちの人生
08.日本経済の歩み②―戦後復興
09.日本経済の歩み③―高度経済成長(1)
10.日本経済の歩み④―高度経済成長(2)
11.日本経済の歩み⑤―安定成長と貿易摩擦
12.日本経済の歩み⑥―バブルとバブル崩壊
13.日本経済の歩み⑦―グローバリゼーションの中の日本経済(1)
14.日本経済の歩み⑧―グローバリゼーションの中の日本経済(2)
15.日本経済の歩み⑨―日本経済の課題

＊対面講義受講者は、一時的に通学を制限される場合もオンデマンド講義受講者とはならない。教員の指示に従って課題学修などを行う。
＊　オンデマンド講義では、対面講義の動画を遅くとも講義日の翌日に配信する。受講生は、この動画を必ず視聴してクイズ、中間レポート試験、期末レポート試験に取り組むこと。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の復習 20時間
中間レポート試験の準備 20時間
期末レポート試験の準備 20時間

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

日本経済論は、経済学部 学部専門基礎科目に配置されている経済学科・経済情報学科共通の6科目中の1科目である。到達目標①・②・③を達成することによって、カリキュラムポリシーで言う「学部専門教育の基礎」の形成に寄与する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

クイズについて、講義時に必要なコメントを行う。
できる限り、受講生が意見を述べる機会をつくる。

実務経験の有無及び活用

なし。

備考

対面講義受講者は、一時的に通学を制限される場合もオンデマンド講義受講者とはならない。教員の指示に従って課題学修などを行う。

オンデマンド講義では、対面講義の動画を遅くとも講義日の翌日に配信する。受講生は、この動画を必ず視聴してクイズ、中間レポート試験、期末レポート試験に取り組むこと。

RYUKA Portal の講義連絡やメールなどをこまめにチェックすること。